

こうとう民報

2022年12月号 No.213

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ http://www.koto-minpo.jp/

大軍拡阻止！ 9条守り、社会保障充実を！



11月25日、「怒りの江東区民集会」が東陽公園で7団体150人の参加で行われ、花岡康雄江東区労連議長が決意表明、日本共産党赤羽目たみお区議が来賓挨拶しました。

参加団体の、区民によりそう江東区長を誕生させる会事務局長の岩本拓也弁護士が「区民の要求が実現できる区長を誕生させる会を発足させ、皆さんと力を合わせて奮闘する」と決意表明しました。

来賓挨拶で赤羽目区議は「山崎区政はこの4年間で区民の税金を溜め込み、区民の要求に逆行している」と厳しく批判しました。

新日本婦人の会江東支部の内田みどりさんが「怒りの江東区民集会決議」を提案。

採択された集会宣言は、次のように強調しています。

厳しい物価高騰が止まらず、最大の原因は、アベノミクスによる異常円安で、実質賃金が低下するばかり。賃上げを

入者1人あたり19万165円となり、今年度17万4889円と比べて1万5276円の大幅値上げになるとの試算を公表しました。

議会報告

12月14日、共産党区議団は、山崎区長に対し「長引くコロナ禍と物価高騰で深刻な区民生活を守るため、高すぎる国民健康保険料の引き下げを求める申し入れ」を行いました。

東京都は、2023年度の国民健康保険料について、国が示した仮係数に基づき試算した結果、都の財政支援や23区独自の法定外繰入が行われない場合、国保加

9条を守る国民的大運動を発展させよう。

江東区政は、受益者負担主義と行政サービス切り捨て政策を押し進め、1700億円を超える基金を溜め込んでいる。「区政を変えよう」の世論を高め「区民によりそう区政」実現に向けて、世論を総結集しよう。

集会終了後、東陽公園から猿江2丁目公園まで元気にデモ行進でアピールしました。

江東生活と健康を守る会 第49回大会開催

11月23日、江東生活と健康を守る会は江東区民センターで第49回大会を開催しました。来賓には、加藤勝治東京生活と健康を守る会会長、日本共産党大つきかおり区議会議員、豊田文雄民主商工会会長が参加しました。

加藤会長は、全国のたたかいで「生活保護減額処分」は憲法25条違反と、大阪・熊本・

いま、年金削減や社会保障の負担増が区民生活を苦しめているもと、今でも高くて払えない国保料をさらに大幅に引き上げるとは、

高すぎる国民健康保険料の引き下げを

の引き下げを

被保険者にとって負担能力の限界をはるかに超え、より一層深刻な事態を招きかねません。

共産党区議団は江東区として、あらゆる努力を尽く

活保護費の削減の成果をつぶそうとしていると批判。この運動をさらに強めようと訴えました。

大つきかおり区議は、守る会とともに運動した生活保護申請の際の、有害な扶養照会中止を求める要請書を江東区に提出し、区は「扶養義務への紹介に当たっては、機械的



挨拶する豊田文男民商会長

豊田文男江東民商会会長は、「生活と健康を守る会をはじめ区内の諸団体と協力して、消費税減税、インボイス制度中止の運動を大きく広げ、来年4月の統一地方選挙で区政転換に皆さん方と連携して奮闘

間もなく新年です。尾身会長も感染したコロナ禍は第8波に。今年の漢字「戦」が象徴するウクライナ

戦争も長引くでしょう▼10日に閉会した国会で成立した旧統一協会被害者救済法は、信者2世を救う実効もなく、2年後の見直しにむけて再検討が必要▼自公政権は、トマホークなど1500発のミサイルによる「反撃能力」の大軍拡に血道を上げ、財源について閣内や党内から異論が噴出して「国民全体で負担する」とした有識者会議の報告書を盾に、1兆1000億円の増税に固執。異論者も大軍拡をすすめる立場に変わりが無いからです▼米国の戦争に加担する安保体制下で、すでに社会保障や福祉を削減し、来年10月実施予定のインボイス制では、2480億円増収を試算して、千百万人超の個人業者等や90%の農家から収奪、24年度には高齢者医療の負担増が企てられているので▼連日、北朝鮮や中国の脅威を報道しているマスコミは、志位委員長が参加して、軍事プロパグの対立ではなく、対話の平和外交を強調するアジア政党国際会議の「イスタンプール宣言」、軍事費増額ストップを呼びかけた欧州左翼党大会決議などは黙殺です。来年こそは、「国を守る」といって「民を滅ぼす」亡国の政治を変えて「和」の年にしたい希い切に。

改訂 江東風土記抄 (47)

第4部 亀戸・大島

梅屋敷と萩寺とアララギ派歌人



広重「亀戸梅屋舗」(百景)

亀戸3丁目に春の名所梅屋敷と秋の名所の萩寺がありました。

江戸時代に伊勢屋彦右衛門が光明寺の板に梅林をつくり、その中の地中に埋まり、また地表にでている梅の枝を、光陰が「臥龍梅」と名づけたといひます。広重の描いた「梅屋舗」をゴッホが模写した絵がオランダの国立博物館に保存されています。

左千夫 1910 (明治43) 年の水害で梅は枯れて梅屋敷はは廃園となっていました。梅屋敷の「亀ヶ井」という古井戸が、亀戸の地名のおこりだといわれます。

萩寺 (龍眼寺) は、1395 (応永2) 年創立の天台宗の寺で、1693 (元禄6) 年から境内に萩を植え、花が咲くころには多くの人々が集まりました。

アララギ派の歌人、伊藤左千夫は、千葉県成東町生まれで、上京して本所区茅場町 (錦糸町駅付近) で牛乳業を営むも三度の水害に。1913 (大正2) 年3月、大島6丁目団地の所に牧場と住居を移しました。しかし、その年の7月30日、50歳で脳溢血のため亡くなり、普門院に埋葬され、歌碑もあります。

左千夫を師と仰ぐ島木赤彦は、1905 (明治38) 年本所茅場町の左千夫宅を訪ね「町外れの静かな住まいは心地よい。裏は庭をへだてて広い空地に向い、その片隅に牛小屋をしつらえてある。茶を飲んでみると、都の外の思いだ」と書いている。

斎藤茂吉は1906 (明治39) 年、左千夫に入門。文化勲章を受賞しアララギ派最高の歌人です。左千夫の三回忌にうたいました。

亀戸の普門院にて三年経し 伊藤左千夫のおくつきどころ



「3日間632ミリ」という降雨量は現在では決して珍しいことではない、どこでも災害が発生しうることが指摘されました。江東5区は関東一帯から河川が集まってくる地域で、過去、水害が繰り返して発生してきました。1947年のカスリーン台風の被害が最大だが、高潮台風だったキティ台風、内水氾濫を起



台風19号では…

今から3年前、2019年10月に台風19号が関東地方を襲い、千葉県などが大きな被害を受けました。江東区でも、荒川流域の総雨量が600ミリを超えるという予測が出て、中でもゼロメートル地帯が広がる「亀戸、大島、東砂、それと北砂の一部」に初めて「避難勧告」が出されました。まさか氾濫か、と肝を冷やした事態でした。幸い、氾濫は回避されましたが、防災対策の問題点が浮き彫りになりました。

「矢白別物語」が午後と夕方の2回、上映されました。矢白別は北海道道東の根釧原野の一角にある酪農地帯。1962年、突然持ち上がった陸上自衛隊の演習場計画に、村議会も受け入れる中で、執拗な土地買収に抵抗して「自分たちが切り開いてきた土地だ」と演習場は「真ん中に踏み止まった2軒の住民 (川瀬、杉野の両氏) と連帯する牧師、教員、労働者のみなさんの闘いのドキュメンタリー映画です。

★行事日程★

- 1月2日 (月・祝) 初詣街頭宣伝 11時 亀戸天神前 14時 富岡八幡宮前
- 1月4日 (水) 10時30分 (区民によりそう江東区長を誕生させる会)
- ◆消費税反対宣伝 (富岡八幡宮前) 消費税廃止江東各界連絡会
- 1月9日 (月・祝) 成人の日宣伝 (テイアララギ周辺) ①10時30分 ②14時 (区民によりそう江東区長を誕生させる会)
- 1月20日 (金) 13時30分 ◆体験会 (江東区教育センター) 絵手紙 ちぎり絵 布置履 イスユガなど 新日本婦人の会江東支部



民主青年同盟江東地区委員会 沖縄平和学習ツアー

民青同盟江東では、12月9日から11日の3日間、沖縄平和学習ツアーを開催し、民青同盟員ら7人が参加しました。沖縄戦の戦跡や惨事を記録した祈念館、全米軍基地の7割を超える基地が集中する沖縄で嘉手納基地と普天間基地や、県民の反対の声を踏みにじり工事を強行している辺野古の新基地建設反対のテント村を訪問しました。

空港に到着してすぐに、住民が戦火を逃れ避難したガマ(壕)やひめゆりの塔、その祈念館を見学。祈念館では、戦時中の悲惨な実態が克明に記録され、平和の大切さが現代に語り継がれています。米軍の普天間基地は、民家の隣に広大な基地が広がり低空で周回する米軍のヘリ。嘉手納基地は、東京ドーム600個以上という大きさで沖縄本島の真ん中を占拠していました。

はじめに、台風19号の降雨量は現在では決して珍しいことではない、どこでも災害が発生しうることが指摘されました。江東5区は関東一帯から河川が集まってくる地域で、過去、水害が繰り返して発生してきました。1947年のカスリーン台風

水害問題講演会 江東0m地帯の水害対策を考えよう

12月18日、砂町文化センターで、区政を考える会が「水害問題講演会」を開催しました。70人余の参加があり、関心の高さがうかがわれました。講師の土屋信行氏は水害防災の専門家です。

「亀戸、大島、東砂、それと北砂の一部」に初めて「避難勧告」が出されました。まさか氾濫か、と肝を冷やした事態でした。幸い、氾濫は回避されましたが、防災対策の問題点が浮き彫りになりました。

こした狩野川台風などの例があり、荒川放水路建設や大規模調整池設置 (埼玉県さいたま市) などの治水工事が実行されてきました。台風19号を上回る降雨がいつあってもおかしくない現在、「安全なまちづくり」が大事と指摘されました。具体的には、地域内に避難できる高台の設置、公的住宅の建て替え時の土台かさ上げ、上層階への垂直避難を可能にするコミュニティ形成などが必要ではないかとのことでした。

下町亀戸9条の会主催「平和記念映画会」 「矢白別物語」―北の大地からのメッセージ

終戦77年・憲法施行75年にあたり、11月26日、カメラアプラザで「平和記念映画会」が開催され、ドキュメンタリー「矢白別物語」が午後と夕方の2回、上映されました。矢白別は北海道道東の根釧原野の一角にある酪農地帯。1962年、突然持ち上がった陸上自衛隊の演習場計画に、村議会も受け入れる中で、執拗な土地買収に抵抗して「自分たちが切り開いてきた土地だ」と演習場は「真ん中に踏み止まった2軒の住民 (川瀬、杉野の両氏) と連帯する牧師、教員、労働者のみなさんの闘いのドキュメンタリー映画です。

隊の演習場の実態も、矢白別に演習場があることも知らなかった」「豊かな自然に恵まれた北海道に基地があったとは知らなかった」「米軍海兵隊の訓練までやっているとは……」などの感想や「岸田内閣の防衛費増額はとんでもない」と怒りの声も寄せられました。